

令和7年度生徒指導サポート実践校「特別活動の取組事例」

学校名	廿日市市立大野東小学校	対象となる主な学年	第2学年
取組事例名	「つながりタイムでなかよくなろう」(SSTの取組)		

◆ 児童の実態及び取組を通して育てたい児童像	
児童の実態	取組を通して育てたい児童像
低学年のトラブルは、自分が何かしら嫌な思いをしたときに突然手が出る、暴言を使うといった事案が多く、言葉で気持ちを伝えたり相手の思いを考えたりすることが十分にできていない。また、自分のやりたいことを優先してしまい、集団生活のルールを守ることができていない様子も見られる。	<ul style="list-style-type: none"> 自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりすることができる。 学校のルールを守り、安全に仲良く集団生活を送ることができる。



◆ 取組の具体的内容	
取組を実施する意図及びねらい	
<ul style="list-style-type: none"> SSTの取組を通して自分の思いを言葉で伝えたり、相手の気持ちを受け止めたりする力を伸ばし、よりよい人間関係を築くことができるようにする。 	
取組の流れ・創意工夫・児童の変容等	
<p><事前> SEL8sの中から、児童の実態に応じて必要だと思われる活動を選択し、進め方を学年団で共有した。</p> <p><指導の実際></p> <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="width: 45%;"> <p><u>A1: あいさつ「おはようございます」</u> あいさつのポイントを合言葉で覚えたり、ロールプレイを行ったりして、相手との好ましい人間関係を築く力をつける。</p> <p><u>A2: 生活リズム「チャイムの合図」</u> 合図を守らずに遊び続けた主人公のお話(紙芝居)を見て、その後を予想したり自分たちの学級の約束を考えたりする活動を通して、みんなで協力してきまりを守り楽しく生活しようという気持ちをもたせる。</p> <p><u>E1: ストレス認知「うれしいこと、心配なこと」</u> 自分が感じる気持ちを話したり聞いたり、すごろくゲームをしたりする活動を通して、人によって感じる気持ちが違うことを知り、場面に適した感情を言葉で伝える力をつける。</p> </div> <div style="width: 45%;"> <p>(その後の様子) もともと挨拶をすることはできていたが、学習後は相手を意識したあいさつをする児童が増えた。</p> <p>(その後の様子) チャイムを守ることをゲーム的に楽しむ活動を体験し、その後もみんなで楽しみながら着ベルに取り組んでいる。</p> <p>「へえ、そう思うんだ。」と自分とは違う感じ方を受け止めながら、楽しんでいた。</p> </div> </div>	



◆ 成果(○)と課題及び今後に向けて(●)
<p>○児童アンケート「友達は自分のよさや頑張りを認めてくれている」の項目では、肯定的評価が1学期86.1%→2学期88.9%とアップした。取組前よりも優しい雰囲気になり、違いを受け止めることができていると感じる。</p> <p>●今年度は2学期からの取組だったため、限られた内容のみになってしまった。来年度は4月から学校全体で計画的に取り組んでいきたい。</p>